

金子みすゞ

本名金子テル。明治36(1903)年、山口県大津郡仙崎村(今の長門市)に生まれる。大正末期から昭和の初期に優れた作品を発表し、西條八十に「若き童謡詩人の巨星」と称賛されながら、昭和5(1930)年、26歳の若さで世を去った。

没後その作品は散逸し、幻の童謡詩人と語り継がれるばかりとなったが、童謡詩人・矢崎節夫の長年の努力により童謡512編を納めた遺稿集が見つかり、「金子みすゞ全集」として出版された。

そのやさしさに貫かれた詩句の数々は、今も確実に人々の心に広がっている。

作曲：大西 進

金子みすゞの全作詞515に作曲し、清水正美らによりその全てが歌われたことで知られる。NHKみんなのうた『カメレオン』、学校でも歌われる『青い空は』など今まで3500曲を発表。うたごえ63年。中田喜直ほかに師事。日本童謡協会会員。

ピアノ：山田剛史

奈良県出身。東京芸術大学大学院修士課程を首席で修了、クロイツァー賞受賞。ドイツ、ケルン音楽大学に留学、国家演奏家試験に合格。

2007年第5回東京音楽コンクールピアノ部門第1位、聴衆賞受賞。秋山和慶氏指揮東京交響楽団を始め、多くのオーケストラと共演。東京文化会館や大阪・いずみホールなどでのリサイタルが好評を博した新進気鋭のピアニスト。

東京藝術大学非常勤講師を経て、現在国立音楽大学、東京学芸大学非常勤講師。日本ショパン協会会員。

ヴァイオリン：三ツ木摩理

桐朋女子高校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を卒業。草津夏期国際音楽アカデミーにて室内楽奨学金を2回授与される。MMCK(アラン・ギルバート、大友直人氏ら芸術監督)にて弦楽四重奏など各地で演奏会に出演。オペラを中心にコンサートマスターとして活躍。

日本人女性で初めて『神々の黄昏』のコンサートマスターを務める。アレクサンダー・テクニークや解剖学、フェルデンクライスを学び身体的な面からの演奏指導にも力を入れている。

うた：清水正美(ソプラノ)

東京都調布市出身。東京学芸大学数学科卒業。声楽を二期会大倉由紀枝氏に師事。ともしびの歌い手として30数年全国各地で清水正美コンサート、出前歌声で活躍。クラシックの歌曲からポピュラーまで幅広いレパートリーとその歌唱力には定評がある。

2001年11月から毎月、金子みすゞ作品集(大西進作曲)の全曲連続コンサートに取り組み、2004年12月11日浜離宮朝日ホールにて完結コンサート。翌2005年2月にアンコール公演を開催し、好評を博す。

その後再び金子みすゞ全詩を歌うコンサートに挑戦し完結。CDは、「清水正美の世界1～6」、「金子みすゞ選集I、II」「歌の力～平和の願い、清水正美の世界7」、2017年7月三代代におくる「虹～七色の声に包まれて～」を出版、好評発売中。

うた：吉田正勝(バリトン)

福島県浪江町出身。東京学芸大学社会科中退。声楽を二期会岸本力氏に師事。ロシア民謡、歌曲、ロシアオペラを研鑽。2004年「ロシアと日本の歌」コンサートを行い、好評を博す。ともしびの歌い手として40年全国各地の出前歌声で活躍。

この15年間ともしび新宿店にて山田剛史氏と協力してともしびクラシックカフェ企画制作と歌い手を兼ねて出演。好評につき続いている。

うた：石垣美恵子(メゾソプラノ)

静岡県南伊豆町子浦出身。漁師の娘として誕生し海と山に囲まれ伸び伸びと育つ。イラストレーターを目指す予定がなぜか？文化服装学園を出てパタンナーに。

友人の紹介で「ともしび」を知り、その後入社、歌を始める。オペレッタ劇団『ともしび』の役者を経て現在は、学校公演での『金子みすゞコンサート』に出演中。歌い手、制作、ともしび合唱団メンバー